



奈良・人と自然の会

＜わたしたちは大和の自然を愛します＞



VIVA！ ならやま … 人と自然がよみがえる空間

ならやまプロジェクト担当 古川祐司

奈良県の募集に応じて県有林の景観形成事業「ならやま里山林整備事業」を始めて3年が経過し、7・33 ha の里山林の景観作りは大まかなながら形が見えてきた。フィールドを縦貫する遊歩道の両側には、畑や田圃が復元され、空閑地には梅林や四季折々の花を楽しむための植栽計画が進められている。山地には観察路や「学びの森」、「遊びの森」などが設けられた。

整備が進むにつれて、景観の素晴らしさに惹かれて、遊歩道を散歩したり、ジョギングする人の数がめっきり増えた。彼らは異口同音に活動の成果を称賛する。奈良テレビのディレクターのK氏は、ならやまの大ファンで、ここの自然はテレビの番組にもたびたび登場している。田圃や畑は小学校の体験授業や課外活動に活用され、PTA、自治会、教育委員会など地域や行政とのつながりも広がっている。「整備と活用」の両輪が徐々に廻り始めている。

かつては無用のものとして放棄されて荒廃した里山が、市民生活を潤す自然として、そのかけがえのない存在価値を認識され「現代の里山」として復活する兆しが、ここに見える。

活動には、19年度延べ471人、20年度1283人、21年度1800人（見込み）の人たちが何らかの形で参加した。中心となって支えているのは、60歳以上のシニア世代のボランティアであり、後期高齢者といわれる方も少なくない。

ならやまでの活動の特色は、仕事が多岐にわたるから、参加者はそれぞれの体力や経験、特技に応じて、やりたい仕事に取り組むことができる。そこは参加義務もノルマも無い。ひたすら自然の声と里山のルールに従って体を動かしていれば、ストレスなどは吹き飛んでしまう。月4回の活動日に参加し、仲間と気持ちのいい汗を流し、次第に変貌していく風景に手ごたえと達成感を共有して一日が終わる。これが3年続いている。しかも年々参加者が増えている。これは只事ではあるまい。素晴らしい自然、語り合える仲間、好きな仕事と揃えば体調もすこぶるいい。ならやまでの活動は、自然と一緒にシニアも甦る場所なのであろう。

4年目を迎え、プロジェクトは、「どのような里山にするのか」という基本的な課題に取り組む。今まで実施した植生調査の結果なども踏まえて、専門家や行政窓口の助言も受けながら慎重に進めていくことになる。さらには数年前から近畿の里山に「ナラ枯れ」の被害が拡大しており、通常行われている高木を主体とした管理には問題がありそうだ。森林総合研究所などの専門機関のご指導も頂きながら、しっかり勉強して、正しい結論を見出したいものである。

ならやまプロジェクトが目指すものの一つは、「現代の里山」を地域の市民が支える仕組みの構築である。ならやま周辺には、放置され荒廃しつつある里山林はまだ多い。我々の活動が、歴史と文化を育んできた、ふるさと奈良の自然復活のモデルケースの一つになればと思いつつ、次年度の計画に思いを巡らす昨今である。

新春講演会

テーマ	「森林をどう扱い どんな森林を作るのか」
日時	1月16日(土) 10:00~12:00、(観察会)13:15~15:30
場所	奈良市中央公民館~奈良公園・春日大社周辺
講師	京都大学名誉教授 農学博士 渡辺 弘之氏
来場者	55名、(観察会参加者)43名

恒例の新春講演会は、京都大学名誉教授 渡辺 弘之先生をお迎えして表題について講義して戴きました。

森林とは？森林の定義にはじまり、天然林と人口林、造林の目的、管理、森林の生態について多角、多面的な視点で、森林、林業を巡る問題点と新しい動きについて提議されました。

特に森、里、海の関連、連携については汚水を浄化して排水するようになって自然が快復されている。植樹とは関係がないとの指摘に注目しました。

講演のあと4名の方から質問等があったが、特にならやまでの具体的な活動については生物多様性につながる活動がいいのではないかと説明があった。

午後の観察会は、興福寺から春日大社表参道、鹿苑から二の鳥居、春日大社へと渡辺先生の解説で小雪のちらつく中、子どもさんも参加されての観察会が開催された。

御蓋山ナギ林は、かつて先生の調査、研究域でもあったので大変詳しく、ジョークも交えての楽しい観察会でした。

講演会には、会場の制約があり広報を控えたのですが、奈良県庁職員、シニア自然大学の講座生、県立奈良大学生等多彩な方々15名の参加を頂き会場は満席の状況となり成功裡に開催出来ましたことをスタッフ一同感謝申し上げます。(岩田記)



会長のあいさつ

奈良公園での観察会



ならやまプロジェクト・レポート 22年1月

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます

1月7日（木）晴 初出 参加者34人

- ・平成22年の初出は、昨年を大幅に上回る34名の参加を頂き、大盛会でスタートしました。阿部会長の新年のご挨拶、川井顧問のご発声による乾杯、続いてグループの世話人（板橋、鈴木、水本、小嶺の各氏）からの新春所感の発表がありました。
- ・初仕事の間に、紅白の餅が搗き上がり、やならやまで採取した七草のお粥を頂きながら、今年の無事を祈り、お互いの健康を祝いました。 12時30分、一本締めで中締め。そのあと、有志の皆さんで地元の黒髪神社、奈良豆比古神社へお参りし一年の無事を祈りました。



1月11日（月）鳥の日 参加者 5名

- ・メジロ、ツグミ、ヒヨドリを確認、シロハラ、ルリビタキ、コゲラは鳴き声のみ。

1月14日（木）晴れ 臨時山の日 危険木伐採 c地区笹藪Ⅱ整備 参加者20名

- ・今冬一番の寒波が到来、しかし、ならやまのシニアは元気です。山仕事には快適な気温など云いながら張り切って仕事にかかる。
- ・びっしり茂った笹藪の壁を4台の刈払い機がエンジン音も勇ましく切り開けば、サポートのメンバーが手際よく束ねていく。笹刈りも4年目ともなれば手なれたものだ。山作業の組は、アカマツなどの危険木の伐採と、椎茸栽培場所の整備。寒さの中にも汗の湯気が立つ。
- ・お昼には、心づくしのアツイ粕汁に舌鼓をうちながら話が弾む。程良い疲労の中、身も心も温まるひと時でした。 3時解散

以上

（古川 祐司 記）

ならやま里山林自然観察しポート

ならやま里山林花だより

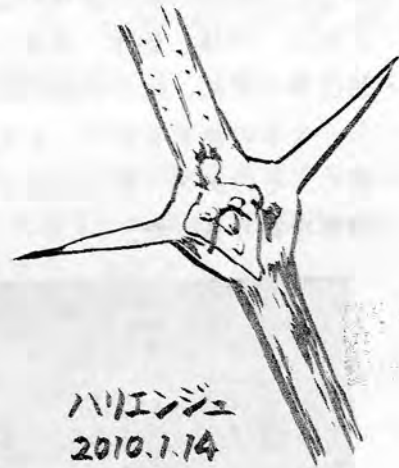
守口 京子

1月14日(木)寒さが一段と厳しくなり、12月には元気に咲いていたヒメツルソバはすっかり枯れてしまいました。それでも陽だまりには咲く花があり、木々の蕾もふくらんできました。

花壇・野原…サザンカ、ハコベ、オオイヌノフグリ、
スイセン、葉ボタン

実…ソヨゴ、ヤブコウジ、マンリョウ、ノイバラ
蕾…クロモジ、アセビ、ヒサカキ、ジンチョウゲ、ウ
メ、フキノトウ

ハリエンジュ(ニセアカシア)はたくましい木です。
ならやま里山林周辺にはたくさん生えていて、春には
きれいな白い花を咲かせ、実を落として増えていきま
す。これはまだ芽生えて間もない木ですが、葉を落と
し棘を出し、冬芽を葉痕の中に隠して冬を過ごしてい
ます。もうすぐ割れ目から新しい葉が出ることでしょ
う。茂り過ぎて伐採の対象になるこ
ともありますが、季節ごとに目を楽しませてくれる木です。



訂正

2010年1月号 p.9 「ならやまの昆虫……冬」

下記のように訂正します。

15行目 誤(表面) → 正(裏面)

16行目 誤(裏面) → 正(表面)

自然俳句欄

礼者来る朝日の明り里清し

秀 夫

新年の初顔揃う。初空、初日、初春、初景色、と初づくし。

今年もどうぞよろしく。礼者は年賀に来る人。新年の季語。

七日粥ふうふうふうと野の香り

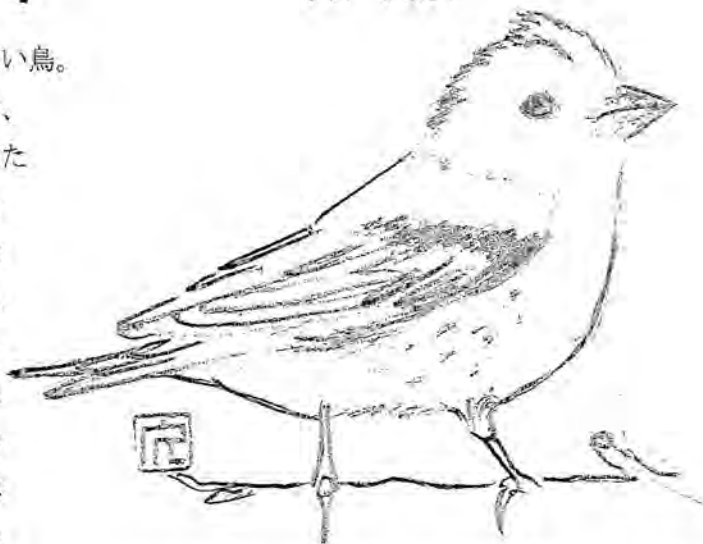
秀 夫

里山の事始めは新酒で乾杯、赤米の餅搗き。里山の七草を摘み
七草粥に黄粉餅、ぜんざい、と新春を言祝ぐ。

アトリ

小田 久美子

頭の尖ったスズメより少し大きい鳥。
枯れ木にいっぱい止まった様子は、
濃紺とオレンジ・白が入り交じった
美しい姿からか漢字で「花鶏」と
書いたりします。アキニレの実
は好物で本当枯れ木に花が咲いた
ようです。山地の実がなくなると
里へ降り、草の種子や落穂を食
べたりもします。年により群れの
数は変動しますが、大群で移
動しますからこんなこともありま



した。太平洋戦争の真っ只中、昭和 17 年 5 月の新聞に『羽毛供出に貢献豊橋猟友会員昨年度の成績』アトリの捕獲数 12 万 120 羽。なんと豊橋だけでこの数、全国ではきっと天文学的な数が捕獲されたのでしょうか。戦争の犠牲者はこんなところにもいました。(新聞記事は皿井 信氏の文中から)

<癒しの散歩道>

振り向かないで

谷川 萬太郎

しぐれる空に舞い散る哀れな椿の花びらよ ひとひら静かに紅く揺らめいて

北風に震えながらも色褪せてなお残り香にすがり 過去は無常にも遠ざかる

寂しさと悲しさを置きざりにした街を離れ 時の過ぎ行くままに足跡を背にして

未来の姿につる想い出重ねて 明日に生きる笑顔のとまり木に出会うために

生まれ変わる故郷を探し訪ねて 新しき道に生きてる心のシグナルを見つけよう

ちいきじょうほう

★14日 明日香村の鳥達は空気がキリキリと冷たい中カシラダカはいきいきとアオサギは堂々とした全身を雲間からの陽の光を浴び ジョウビタキも輝いて見違えるよう。ツグミ モズ カワラヒワみな元気でよかった。久し振りの明日香で17種を観察しました。(斎藤)

★1/19 県庁前のナンキンハゼの実にアトリが十数羽いました。(小田)

★(斑鳩より)1月4日知人の庭でウグイスが本当にか細い声で「ホーホケキョ」と練習していたそうです。その日1日だけだったそうです。(勝田)



原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率（午前）60%以上の場合は中止

『ならやま里山林プロジェクト2・3月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所： 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR 平城山駅下車徒歩10分）
—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—
（案内地図が入用の方は、担当幹事までご連絡下さい）

日時： 2月 2日（月） 里山講習会 チラシご参照
2月 4日（月） 一般活動日
2月 8日（月） ならやま野鳥調査の日（小雨実施）
2月11日（木） 臨時山の日（希望者のみ）
2月20日（土） 一般活動日・教育実習生
2月25日（木） ならやま山の日（里山整備、椎茸菌打ち準備）
2月28日（日） 雨天の予備日
3月 4日（木） 一般活動日（椎茸の菌打ち）
3月 6日（土） 公開イベント「椎茸を作ろう」
3月 8日（月） ならやま野鳥調査の日（小雨実施）
3月11日（木） 臨時山の日
3月20日（木） 一般活動日
3月25日（木） ならやま山の日
3月31日（水） 雨天の予備日

集合： 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通： ①近鉄奈良駅 バス13乗場8:23発 高の原行（平日・土曜）

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8:32発 JR奈良行（平日）

8:30発 JR奈良行（土曜）

① ②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意）服装は防寒にご留意下さい。

*環境保護のため、コップ・箸・椀は各自でご用意下さい。

活動内容：里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の
景観形成、復元田畑の農事作業、有機栽培のための堆肥作り、土作り

*自由活動日について：火曜日、金曜日を「ならやま自由活動日」とします。

活動される方は担当幹事までご連絡下さい。

*担当幹事：古川

・小嶺

・岩田

里山講習会「ナラ枯れ問題と里山林の管理」

日時：2月2日（火） 13時～16時

場所：奈良市中部公民館視聴覚教室

講師：森林総合研究所 黒田 慶子氏

＊詳細はチラシをご覧ください。



＊ならやま野鳥調査～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

☆日程：2月8日（月）

★出発時間・場所：9時・ならやま駐車場

☆小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。中止の時は次週に順延。

★担当者：小田

・菊川

2月例会「大和川の野鳥観察会」

寒ウ～いよ～オ！

日時：2月17日（水） 9時30分

集合場所：近鉄平端駅

持ち物：双眼鏡・弁当・飲み物。防寒・足元の用意もしっかりしてきて下さい。

担当：小田

・勝田

＊前日の天気予報で降水確率60%以上の場合は中止いたします。

3月例会「津越の福寿草」を訪ねよう

奈良・西吉野の山麓にたたずむ津越の集落は、園芸用の梅や桜が育つ花木の里です。他の花に先駆けて春を呼ぶ「福寿草」に会いに出かけませんか。日本の山地にも自生していますが、この地のように群生しているのは珍しいそうです。1975年には奈良県の天然記念物にも指定されています。

日時：2月28日（日）（雨天予備日3月3日）

行き： 大和西大寺 8:55—橿原神宮駅乗換 9:30—吉野口乗換 10:10—五条駅新
宮行きバス乗車 10:32・・・城戸 11:00

天王寺 8:59—王寺乗換 9:26—五条バス乗車 10:32

帰り： 城戸 14:46・・・五条乗換 15:30—吉野口乗換 15:45—橿原神宮駅乗換
16:07—大和西大寺 16:38

五条 15:30—王寺乗換 16:24—天王寺 16:43

集合時間：11時 五条市西吉野町城戸バス停

津越までは山道を約1時間半ゆつくり歩きます。

担当：豊島

西谷

平成22年1月度幹事会議事録

日時：平成22年1月12日(火)場所：佐保台地域ふれあい会館 司会：豊島記録：西谷

【報告事項】

- ① 会員数：121名
- ② ならやまプロジェクト12月活動報告 定例活動2回、臨時3回、鳥の日1回
- ③ 研修会2/2(火)13～16時 中部公民館「ナラ枯れの被害をどう減らすか」無料
- ④ 佐保台小より、校内フェスティバルで展示した稲作の写真とお礼が送られてきた。
- ⑤ 広報紙のコンクール（毎日新聞主催）に出品。入賞は逃したが評価が送られてきた。 ＊確認：投稿者はフォント11,40字、40行、明朝体を守る事
- ⑥ 奈良大学インターン生の研修12/19で終了（4日間8コース）

【確認事項】

- ① 22年度のならやまプロジェクトの方向付けを2月中にまとめる。
- ② ホームページの更新はKCNに変更する。但し3ヶ月は今のものと併用する。
ヤフーの掲示板については引き続き検討する。
- ③ 2月例会2/17（水）「大和川の野鳥観察」 3月例会2/28（日）「津越の福寿草」
2月ならやま：2日研修会、4日一般作業日、8日鳥の日、11日臨時山の日、
20日一般作業日、25日山の日、
- ④ 新人歓迎会3/20ならやま作業日に実施。担当：岩田、小嶺、寺田、守口
- ⑤ 新年度の教育部門担当者を検討する。

【討議事項】

- ① インタープリテーションの講座を6月中に持ちたい。
- ② 出前教室の新年度の担当者の決定。
- ③ 会報の在り方についての話し合い。

編集後記：＊前号でお知らせしたように、5月には会報100号誌記念号を発行します。資料・写真のほか、皆さんで特に印象深い行事等「思い出」があれば、ご投稿下さい。締め切りは2月末日。＊会報3月号の発送作業は2月26日（金）です。
「奈良県西奈良ボランティアセンター」で午前9時からです。徐々にご協力いただく方が増え、作業も早く終わり助かっています。今後ともご協力お願いいたします。

編集担当：勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生

奈良・人と自然の会

里山講習会

ナラ枯れ問題と里山林の管理

講師

独立行政法人

森林総合研究所関西支所

地域研究監 黒田 慶子 氏

日時： 2月2日（火） 13時～16時

場所： 奈良市中部公民館視聴覚教室

参加費： 無料

1950年以降、長年にわたって放置されてきた里山林では、主要樹種の老齢化と、松枯れ病によるアカマツの枯死、林床の藪化、竹類の繁茂による荒廃化などの健康障害が目立っています。

今また新たな問題がクローズアップされています。それは「ナラ枯れ」という伝染病で、里山の主要樹種であるコナラ、ミズナラ、クヌギなどが集団で大量に枯死する現象です。すでに近畿地方各地でその被害が報告され、隣接する京都府、大阪府でも被害が報告されています。

この問題に対処するためには、里山の管理の在り方を抜本的に見直すことが必要といわれています。今回の講習は、ナラ枯れ問題研究の第一人者の黒田先生にお願いして、病気の原因を勉強し、あわせて里山管理の方法についてアドバイスを頂きます。

関心ある各位のご来聴を歓迎いたします。

連絡先： 奈良・人と自然の会

代表 阿部和生